

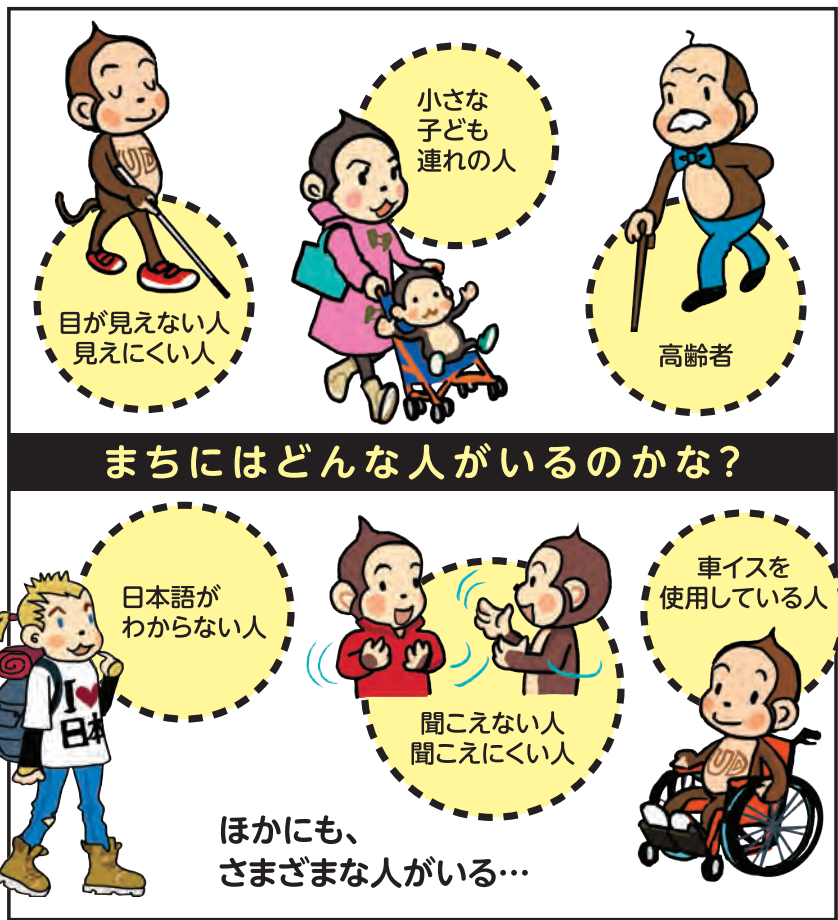
世田谷UDスタイル

**まちには
どんな人がいる？**

私たちは様々な人とともに暮らしています。その中には障害のある人も、ベビーカーで子どもを連れてくる人も、外国から来た人もいます。

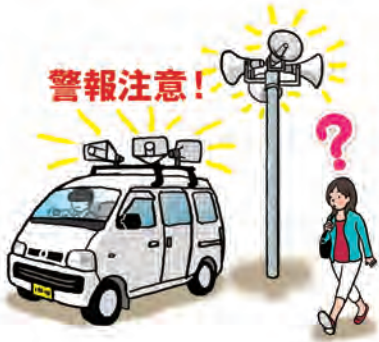
**多様な人がまちに
気軽に出るためには？**

多様な人が、その能力にかかわらずまちに気軽に出ることができるとなるためには、多くの人々が多様性についての正しい



知識を持つことが必要です。たとえば、障害のある人に対する知識が不十分であるために、障害のある人がまちで不便や困難を感じる場合があります。

▼聴覚に障害がある人
緊急時や、駅などで放送が聞こえず情報を得にくい。



▼車イスを使っている人
入口の段差や狭さがバリア(障壁)となり、店に入るができない。



▼視覚に障害がある人
視覚障害者誘導用ブロッコの上の自転車や看板で安全に歩くことができない。



ここに挙げた内容はほんの一例です。ほかにもたくさん困ることがあります。世田谷区では新しく建物や道路をつくったり改修したりするときには、バリアのない施設整備をするように、その多くを義務化していきます。しかし、小規模な建物や義務の前につくられた建物すべてに、一律にその基準を適用することはできません。また、バリアのない施設であつても、うまく利用できないければ「誰もが使いやすいまち」にはなりません。

まちを「使いこなす」とはどんなことだろうか？

**今ある施設を
有効に使うために**

世田谷区内では、すべての駅にエレベーター等で段差解消がされています。これは10年前には考えられなかったことです。まちのバリアフリーが進むにしたがって、今までまちに出にくいと考えていた人たちが、どんどんまちに出て来られるようになりました。

それはとても素晴らしいことです。それに伴って新しい課題も見えてきました。たとえば駅のエレベーターでは、たくさんの方が列をつくっています。エレベーターはすぐに一杯になり、ベビーカーを押している人や車イスを使っている人が、次のエレベーターが来るのを待つこともしばしばです。

エレベーターはもちろん誰もが使えます。しかしエレベーターしか使えない人もいます。もし、階段やエスカレーターを使える人が車イスの人に譲れば、もっと皆がスムーズに気持ち良く使えるようになるかもしれません。

ません。

もっと大きなエレベーターがあれば良いのでは？、そうかもしれませんが、まちはすぐには変わりません。

そこで大切なのは、今ある施設を少しずつ良くなっていくことも、有効に使うことなのです。

**日常生活にユニバーサル
デザインの考え方を**

そのために提案したいのが、ユニバーサルデザインの考え方を日常生活に取り入れる「世田谷UDスタイル」という考え方です。

これからどんなUDスタイルを世田谷に広げていくか、一緒に考えていきませんか。

「世田谷UDスタイル」とは

多くの人がまちを快適に利用できるための工夫や配慮を、自分自身の日常の暮らしに取り入れ実践していくことが「世田谷UDスタイル」です。様々なスタイルをこの冊子では紹介していきます。

第1号の内容

	ページ
特集 子どもから考える世田谷UDスタイル	>>> 04
まちはボクらのワンダーランド	>>>>>> 06
自分で買い物したい! そんな思いに応えたい	>>>>>>>> 08
お出かけは気を遣います でも気軽に出かけたい	>>>>>>> 10
ワークショップ参加者と考える ～世田谷UDスタイルって何だろう～	>> 12
ユニバーサルデザインを広げる活動 一緒にやってみませんか。	>>>> 14
世田谷区の取り組み	>>>>>> 15

UD(ユニバーサルデザイン)とは

世田谷区では平成11年から、高齢者や障害のある人のために、障壁(バリア)を取り除くという「バリアフリー」の考え方でまちづくりに取り組んできました。平成21年からは「バリアフリー」の考え方だけではなく、前もって多くの人が必要としていることを想像し、バリアのないまちをつくる、という考え方でまちづくりを進めてきました。この考え方を「ユニバーサルデザイン」といいます。直訳すると「ユニバーサル(universal)は普遍的な、デザイン(design)は設計や計画」という意味ですが、世田谷区ユニバーサルデザイン推進条例では、ユニバーサルデザインを「年齢、性別、国籍、能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用しやすいように生活環境を構築する考え方」と定めています。